

研究分野としての シーサート活動の可能性 ～パネルディスカッション～

2018年10月23日

主催：情報処理学会 セキュリティ心理学とトラスト研究(SPT)
協力：電子情報通信学会 情報通信システムセキュリティ研究会 (ICSS)
日本情報経営学会

セッション概要

サイバーセキュリティ対策の一環として、CSIRT(シーサート)が注目されているが、シーサートに規格はなく、シーサートの目的、立場、活動範囲、法的規制などの違いから、それぞれの組織において独自に実装し活動している状況にある。すなわち、シーサートやシーサート活動が体系化されているわけではないこと、技術だけではなく、組織、法律など幅広く学術系での異分野交流を図ることのできる研究分野であり、未着手の研究分野であると言える。

本セッションでは、現状のシーサート/シーサート活動について有識者による講演とパネル討論を通じて、研究分野としてのシーサート活動の可能性や期待について議論する。

モデレータ+パネラーの紹介

- モデレータ
 - 寺田真敏(SPT研究会)
- パネリスト
 - 中西晶(明治大学)
 - 梅村香織(JPCERT/CC)
 - 茂岩祐樹(DeNA CERT)
 - 宮本貴朗(大阪府立大学)
 - 木藤圭亮(三菱電機/ICSS)

ディスカッションの進め方

- **トピック1：研究のきっかけを探そう!**
 - 問題提起も含め、パネリストの意見を聞いてみよう。
- **トピック2：シーサート関係者と研究者との協働の場を作ろう!**
 - 実務と研究との橋渡し
 - シーサート活動として今後注目すべき分野

シーサート関係者と研究者との協働の場を作ろう!

- 未着手であるインシデント対応、シーサート分野を研究分野で立ち上げる利点
例：個別事例を一般化するなど、知見の共有化を図る。
- 学会横断で取り組める場としての利点
例：シーサートの研究分野は、技術だけではなく、組織、法律など幅広いことから、学術系での異分野交流を図ることができる。
- 産学連携で取り組める場としての利点
例：学位取得など、本研究分野をキャリアアップの手段として利用できる

ディスカッションの進め方

- **トピック1：研究のきっかけを探そう!**

- 問題提起も含め、パネリストの意見を聞いてみよう。

- 中西 晶(明治大学)
組織論からのシーサート活動について
- 梅村香織(JPCERT/CC)
海外連携の側面からのシーサート活動について
- 茂岩祐樹(DeNA CERT)
企業におけるシーサート活動について
- 宮本貴朗(大阪府立大学)
学術機関におけるシーサート活動について

ディスカッションの進め方

- **トピック2：シーサート関係者と研究者との協働の場を作ろう!**
 - **実務と研究との橋渡し**
 - 木藤圭亮(三菱電機/ICSS)
製品セキュリティと研究活動
 - 実務と研究との距離感って、なんですか？
 - 参加者(実務)のみなさまへ、「研究への期待ってなんですか？」
 - 参加者(研究者)のみなさまへ、「実務への期待ってなんですか？」

ディスカッションの進め方

- **トピック2：シーサート関係者と研究者との協働の場を作ろう!**
 - **シーサート活動として今後注目すべき分野**
 - シーサート関係者から見た、気になる分野(人材、研究、組織体制など)は何ですか？
 - 学術関係者から見た、シーサート団体に協力してもらいこ
とって何ですか？
 - 参加者のみなさまへ、「心配事ってなんですか？」

まとめ

- パネリストの皆様から、セッションのまとめとして、「シーサート活動」を支える学術活動への期待に関してひとこと、お願いします。

CWS(シーサートワークショップ)企画セッションの今後の予定

- 2019年1月
SCIS 2019において、企画セッションの開催を計画中